

(7) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

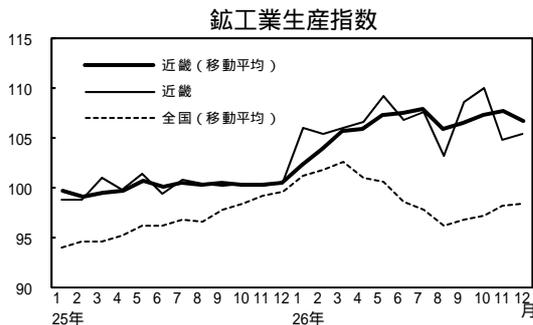
前回調査からの主要変更点

	前回(平成26年11月)	今回(平成27年2月)
住宅建設	減少	大幅に減少

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は、おおむね横ばいとなっている。

10~12月期には、はん用・生産用・業務用機械は、自動立体倉庫装置、半導体製造装置等でまとまった出荷があったことの反動等により減少した。化学は、アンモニアの生産が増加したこと等から増加した。電気機械は、一般用タービン発電機等で増加した。輸送機械は、新型車が発表されたこと等により軽自動車等で増加した。食料品・たばこは、乳製品、水産製品等で減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7~9 月期	10~12 月期	10月	11月	12月
はん用・生産用・業務用機械	17.4	0.7	1.5	9.8	11.2	2.2
化学	16.8	1.2	2.2	1.1	2.7	1.9
電気機械	9.0	9.8	1.2	0.4	3.2	2.6
輸送機械	8.4	6.1	1.4	0.0	4.8	4.3
食料品・たばこ	6.7	6.5	12.6	2.7	0.4	9.4
鉱工業	100.0	0.9	0.2	1.3	4.8	0.7

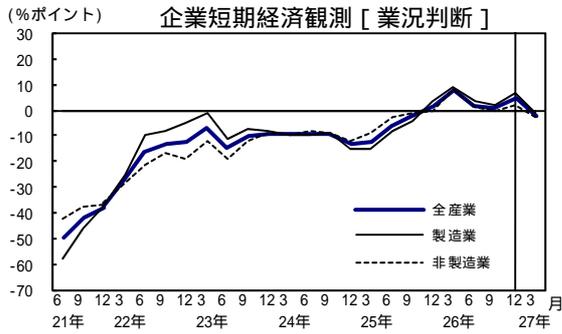
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。

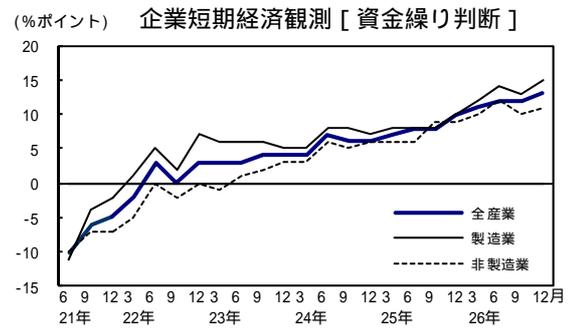
2. 全国及び近畿の大線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

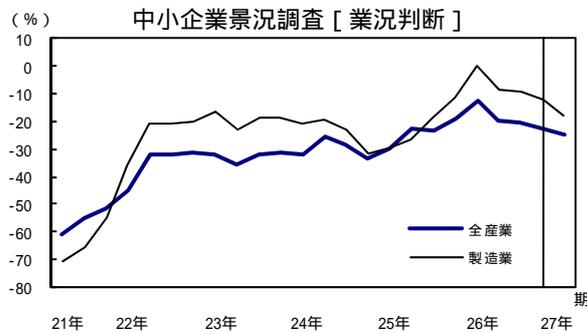
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年3月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。

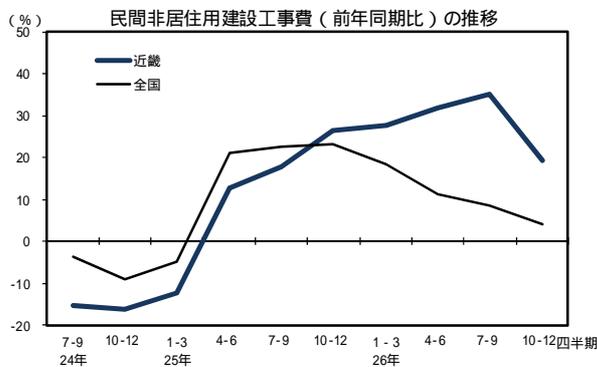


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「輸入商品の原価が上がってきているため、得意先に値上げを要請しているが、今のところは受けてもらえない。夏場ぐらいまでは粗利益が減少する(その他非製造業[機械器具卸])」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	25年度実績	26年度概
全産業	0.3	10.0 (2.6)
製造業	5.1	6.6 (4.2)
非製造業	3.9	12.1 (1.7)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比1.3%減、11月は同2.2%増、12月は同0.8%減となった。

大型小売店販売額

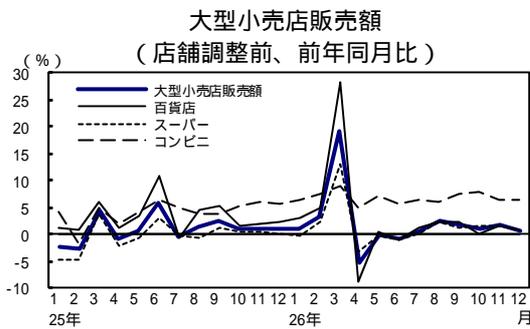
百貨店は、10月は、免税品目拡大等により訪日外国人の売上げが伸長したことなどから前年を上回った。11月は、訪日外国人に対する販売が好調だったほか、前年に比べ日曜日が1日多かったことなどから前年を上回った。12月は、気温低下で鍋物商材が好調であったことに加え、時計等の高額品や化粧品が訪日外国人の増加もあり伸長したことなどから前年を上回った。

スーパーは、台風等や気温高により冬物の重衣料が動かなかったものの、畜産品が好調だったこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

近畿地域の家計動向関連DIは、47.4となり前月より0.8ポイント低下した。

「年末年始は各地で雪の影響が大きく、特に年末は売上が伸びなかった。注文が少なく、数字がなかなか上がらない(一般小売店[菓子])」など、「変わらない」とする回答が増加した。

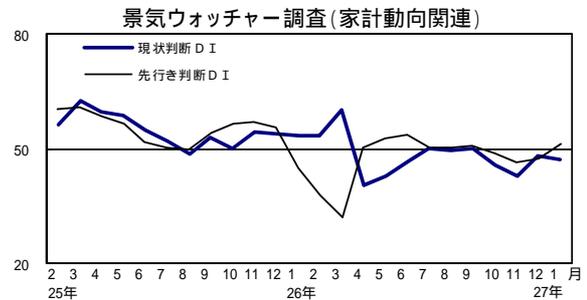
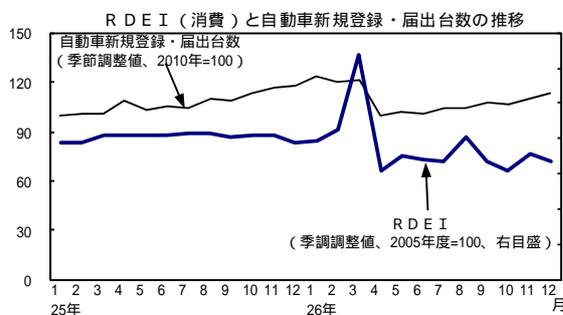


	26年10-12月	26年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	1.2	1.3	2.2	0.8
大型小売店(*2)	1.1	1.0	1.6	0.7
百貨店(*2)	0.9	0.2	1.7	0.8
スーパー(*2)	1.2	1.5	1.6	0.7
コンビニ(*2)	6.9	7.8	6.3	6.5
乗用車(*3)	5.5	5.7	9.6	1.0
(季節調整値)(*3)	4.6	0.5	3.0	2.7

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

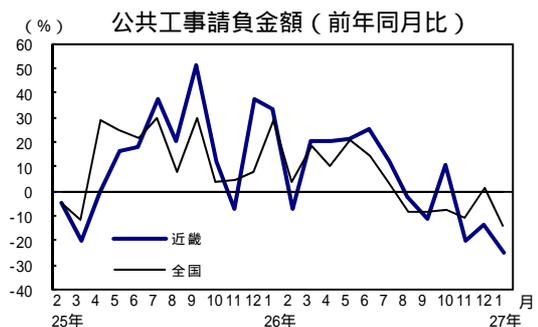
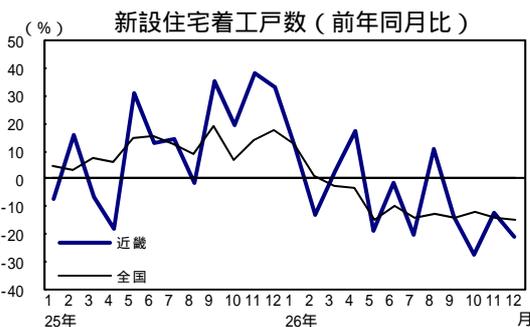
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、大幅に減少している。

(3) 公共投資は26年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

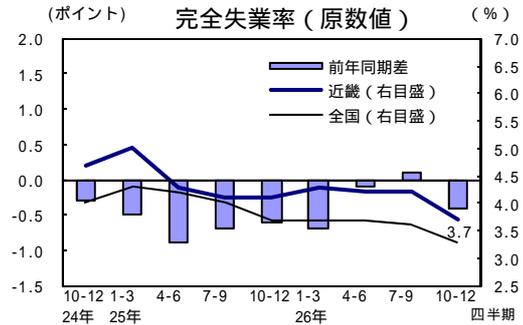
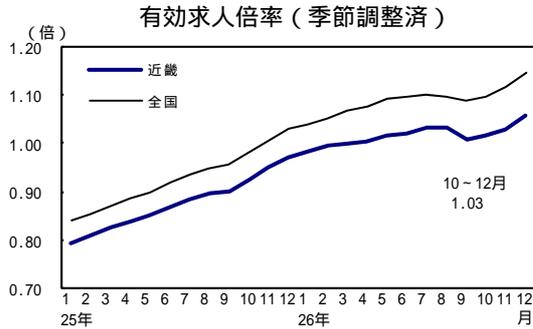


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]

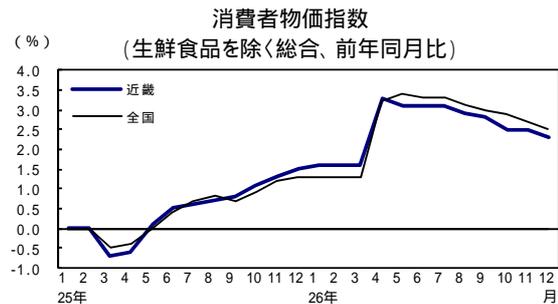
「訪日外国人客の増加に伴い、小売業や宿泊業を中心に新規求人数が増加傾向にある（職業安定所）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	27年1月
倒産件数	612	670	624	584	159
(前年比)	9.9	6.3	3.9	10.3	30.3
負債総額	652	1,035	845	714	125
(前年比)	7.7	1.0	36.1	21.1	57.3



景気ウォッチャー調査（1月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・消費税増税後の売上低迷は継続しており、前年にあった駆け込み需要の反動もみられる。ただし、昨年10月以降、急激に増加している外国人客向けの売上の増加で、今月は増収の見通しである（百貨店）

<先行き>

- ・国内では主要なエネルギー源である原油の価格が下落しているため、余暇の消費は増えると思われる。また、インバウンド関連では円安傾向が続いているため、3月末から4月にかけての桜のシーズンも、昨年よりも順調に予約を伸ばしている（都市型ホテル）

